

特別専攻 1 期生（本学大学院進学生）聞き取り集約

1 特別専攻生としてどのように成長したか

ゼミに入り先生の近くで学ぶ

- 先生と会う頻度が高く、ゼミ、研究室を早い時期に知ることができたことから、早い時期に関心を絞ることができた。
- 先生の身近で学ぶことができたこと、早い時点で研究室に入ったこと。
- 1年次から研究室を知る授業があり、先生の近くで勉強できることでの成長。
- 入学時からエンジンに関心があった。他の分野にも関心を持つようになったが、特別専攻で先生と近くにおいて話す機会が多く、エンジンへの関心が高まった。

第一志望でなく入学、やるべきことを見出した

- 第一希望校でなく入学したが、先生と近くで話す機会が多く、面倒をみてもらったことで成長できた。
- 第一志望でなく入学し、学びたいことも異なっていたが、特別専攻に在籍し、先生と近くいることで関心あることを見出した。自分から学習する習慣が身についた。
- 入試に際して、他学はすべて不合格で神奈川工科大学だけ合格。しかし特別専攻に入り徐々に「大学が自分たちのために特別な措置を準備し実施している」ことを感じた。
- 第一希望校でなくとりあえず入学。特別専攻に在籍して自分が何をやりたいかがわかった。
- 第一希望ではない。できることをできるだけやろうと思った → できた。「情報」は知らないことだらけだが、現在、希望に沿った勉強ができています。

周囲から反対されたが、入学し特別専攻に入って良かった

- 出身高校は国公立をめざす風潮が強く、神奈川工科大学進学は周囲から反対されたが、自動車の学科の先生が良いので勉強する環境が整っていると考え入学した。一般生として入学したが、勉強の環境をさらによくするため特別専攻に転科した。ステップアップする制度、機会があつて良かった。

1 年前期一般から後期に転コース

- 願書で特別専攻のことは知っていたが自分にはレベルが高いと思い一般に入学した。入学後の特別専攻の説明会に出席した。特待生であったので、特別専攻に移るとリスクが大きい（GPA が下がりスカラシップを受けられない可能性、留学費用）と思い躊躇ったが、家族の理解を得ることができ、1年後期に編入した。
- 1年前期は一般。一般コースでは授業中がうるさかった。特別専攻では、学生の意識が高く、刺激を受けることが多かった。神奈川工科大学と特別専攻は別の大学に思えた。
- 入学時には特別専攻を知らなかった。特別専攻に入り、先生と会う頻度が格段に増えた。

特別専攻のことを理解しないままに入学

- 出願のとき、よく理解しないまま「特別専攻」にチェックを入れたら合格した。合格通知をみてチェックしたことを思い出したという程度の意識だった。特別専攻という語の響きに特別なものを感じそのまま続けたが、3年次に特別専攻をやめたいと思った。やめられなもので、そのまま卒業まで続けた。

学習への集中

- 必修科目が多く非常に苦労したが意識的な成長ができた。1年次、遊ぶ時間がないことにより勉強に集中することができた。
- 読み替えできない科目もあり1年後期は厳しかった。ハードな日々、ハードな課題に立ち向かう力が備わったと感じている。(後期転科者)
- 学習時間が格段に増えた。理解することの大切さ — 中身を知ること、過程を知ることを学んだ。
- 新聞理解表現演習、TOEICにより継続的な学習習慣が身についた。

特別専攻と大学院進学

- 特別専攻に在籍したから大学院進学した。大学院進学を決めたのは3年前期。先生と近く、大学院のイメージが明確になった。
- 案内に特別専攻は6年間とあったので、大学院進学は入学時から当然のこととして受け止めていた。
- 大学院進学は2年次に決めた。
- 特別専攻でなければ大学院進学をめざさなかった。
- 4年生になって研究をはじめ、1年間では足りないと思い大学院進学意志が高まった。

その他

- 文章の書き方—卒論や学会発表の要旨において評価された。
- 3年次から学会発表の機会を得た。
- 発表することが苦手だったが、機会が多く慣れてきた。
- 英語力向上(特別専攻でなければめざさなかった)
- 留学は一般であったら行かなかった。
- それまで関心の鬱買ったことに対して関心を持つことができるようになった。社会家の授業を楽しく受けた。
- 様々なことにチャレンジしたいと思うようになり、自分なりにできたと思う。

2 特別専攻カリキュラムのよいところ、わるいところ

ゼミ

- 早い時期からゼミに入ったことでモチベーション上昇。
- 少人数で先生の近くで学べる。早い時期から研究室を知る。
- 研究室を回る授業があり、早い時期にやりたいことをみつけられる。
- 2年次後半から実験、研究を経験し、モチベーションが上がった。
- 実験ができたこと、サイエンスインカレに向けて学ぶことができたこと、論文要旨の書き方を教えてもらったことなど、研究室を早く知ることにより多くのことを得た。
- マンツーマン指導を受けることができ、大学院進学のきっかけとなった。

海外研修

- 研修先は非英語圏ありながら当然のごとく英語でのやりとりが行われていることが印象的だった。
- 留学が必修になっていてよかった。留学により視点が広がった。
- 必修で留学があるのがよい。留学先で研究できたことが良かった、
- 入国手続きの際に英語で話しかけられたときの印象が強い。

- 留学が良かった。帰国後、英語学習のモチベーションが上がったが、行くまでに英会話を学べるとよく、時間割の中にいれてほしい。イングリッシュ・ラウンジに行けばよいのだろうが、行く時間がない。

TOEIC

- TOEIC 受検が必修であることが良かった。
- TOEIC には特別専攻に在籍したからこそ受検した。英語力が上がった。
- 夏の TOEIC 講座が非常によかった。 TOEIC 対策では夏期講習がよかった。 夏の TOEIC 講座がよかった。
- TOEIC 必修、600 点をとれるまでサポートされるのはありがたい。
- TOEIC の 600 点要件は厳しいが良かった。就活のうえで今後 700 点をめざす。

新聞理解表現演習

- 社会への関心、社会を見る目が養われ、読んで要約を書くことの繰り返しにより、読解力や文章力が高まった。
- 新聞を読む習慣、記事の中からテーマをみつけて意見を持つこと、それを書くことによる文章力を身につけることができよかった。
- ものの見方、文章の書き方を学ぶことができた。要約する力、文章力が高まった。
- 課題を発見する力、読んでまとめる力、書く力が身についた。
- 毎日読むのできついが、文章を書く能力がつきよかった。読むこと、要約することは大きな力となった。

- 読む力、書く力等がついたが、他の授業の準備等に割く時間が減って大変だった。

高度な授業、視点の広がり

- 全般的に一般生の授業に比べて高度であり良かった。
- 教養的な授業が自分の幅を広げるうえで良かった。特にグローバル・コミュニケーションは国際的な視点を得るうえでよい。
- 専攻と直接的な関係の薄い授業で視野が広がった (物理の基礎科目)
- 2 年次の微分方程式の授業が強く印象に残っている。レベルが高く、かつわかりやすかった。
- 早期インターンシップで、はじめてチームで調べ、話し合い、発表ということをおこなったことが良かった。ただ、遠くへ行くこと、他大学生と準備についての日程調整をおこなうことなど負担が多かった。

必修が多いため専門基礎導入科目、専門科目等を履修できない、

- 医生命の専門科目をもっと多くとれるようにしてもらいたかった。生命科学 I など受講でいきなり専門基礎導入科目があった。ライフサイエンスは、現時点では興味深く思えるが、当時は難しかった。
- 必修が多いため、興味あることに割ける時間が少なくなる。
- 1、2 年次の必修が多すぎ。ゼミ関連の学習を行う時間の確保が困難。
- 1 年次、特別専攻だけの授業が多い。学科の一般生が受ける基礎科目を受けられない。

その他

- 1、2年次の必修5限は厳しい。奨学金の説明会等、5限に行事がある際、別日程での説明等をお願いした。
- 特別専攻だけの授業が多い。同じ学科で仲良くなった学生と遊べない。特別専攻という狭いコミュニティーそのため、入学後の友だちづくり、友だち付き合いが困難。一方で、特別専攻にすることで他学部、他学科生との交流ができた。
- 入学から編入までの間、一般の学生との交流があつてよかった。他の特別専攻生をみると、一般の学生との交流できる機会がもう少し多いとよいと思う。
- 1年次必修が多い。生化学Iとライフサイエンスは同じような内容なので一般生と一緒に受講がよい。1年次は
- ライフサイエンスは基礎が定着していないと厳しい。友だちづくり、人間関係構築が必要なので一般生と一緒に授業が多いとよい。
- 特別専攻だけの授業が多い。同じ学科で仲良くなった学生と遊べない。特別専攻という狭いコミュニティー。そのため、入学後の友だちづくり、友だち付き合いが困難。一方で、特別専攻にすることで他学部、他学科生との交流ができた。
- 入学から編入までの間、一般の学生との交流があつてよかった。他の特別専攻生をみると、一般の学生との交流できる機会がもう少し多いとよいと思う。
- 留学を踏まえると英会話の授業があるとよい。
- グローバル・コミュニケーションはいらない。シラバスと実際の授業の内容が違う。(シラバスを読み、英語で行われる授業だと思っていたが、実際には日本語での授業だった。)
- 留学前の茶道等を扱う授業は疑問。留学前の日本文化(茶道、歌舞伎)を自分に活かすことが困難だった。それより、むしろ英会話の授業をしてほしい。

3 特別専攻の教育課程による成果、満足度をどのように実感しているか

成長、満足度

- 意識的な成長はできたと思う。
- 満足している。10点満点で10点。「マイナス要因を探して答えようとしたが、マイナス要因はない」。忙しかったが、それは不満要因にはならない。
- 満足度は80%。研究の頭の使い方は特別専攻ゆえに身につけることができた。「特別専攻のカリキュラムでやっているのだから、がんばらねば」という糧となった。TOEICや語彙読解力検定を受検できるのは特別専攻ならではの、もっと主体的に活用すべきであったと思う。このような反省(悔み)が20%。
- 満足度は10段階の8。残りの2は、1年前期の必修の多さ。
- 特別専攻にいたから、高い要求を受けてもできる、とあって臨むことができた。
- 早い時期からのゼミ参加。特に2年後期からの専門科目で深まった理解は特別専攻ならではのことと実感する。学ぶ楽しさは特別専攻の教育課程で学んだからこそ得られた。

専門科目をふやす

- 専門基礎導入についてはもう少し厚くしてほしいが、全般には満足。
- 座学より専門科目を充実してほしい。もっと選択肢がほしい。
- 教養的な科目ではなく、もっと医生命ならではの専門科目を設定してほしい。

大学院進学

- もし1年後期に転科せず一般のままであったなら同じ成果は残していない。ゼミで2、3年次に専門的なところまで学び、その先に卒論、大学院進学があった。
- 特別選考に在籍したから自分のやりたいことができた実感。4年になって大学院進学を決めた。
- 大学院進学。もっと知りたいと思うようになった。4年では足りないと思うようになり、進学した。
- 大学院に進学し、一般生から進学した学生と話すと、特別専攻で多くのことを学んだことが実感できた。
- 特別専攻の授業レベルが高いことにより、より深く学ぼうという意識が高まった。

海外研修、TOEIC

- 英語力については非常に成長できたと思う。
 - TOEICに向けた準備としての英語の授業は必要だと思う。留学で、英会話は身につけるべき力だと思った。
 - 英語は嫌いで留学など思いもしないでいたが、留学は自分の世界観を広げた。英語も好きになった。
 - TOEIC に本腰を入れ始めたときに留学があり、ホームステイなどでコミュニケーションがとれず悔しい思いをしたことがモチベーションを高めた。勉強は一冊のテキストを徹底的に学び、リスニングは e-learning を活用した。
 - 海外研修がよかった。本学への海外からの留学生の受け入れにも関わることができた。
 - 留学先での研究が楽しかった。
-
- 留学が良かった。帰ってきてからの英語学習のモチベーションが上がったが、行くまでに英会話を学べるとよく、英会話を時間割の中に入れてほしい。イングリッシュ・ラウンジに行けば良いのだが、その時間がない。

その他

- もしもう一度入学するなら、特別専攻を希望するかどうかは微妙。一般への転科を考え、できなかったから継続した。今受験するなら特別専攻を希望しないだろう。

4 大学院での学修で大切にしていることは何か。卒業後の展望

研究への専心

- 大学院進学は3年夏に行きたいと決めた。研究テーマについて一定の結果を出したい。
- 研究室で新規の研究に着手している。研究センターで成果を出したい。
- 成果を出すために努力を惜しまず継続した学習に努める。データを集めることなど、同じことの繰り返しをしないか悩む必要があるが、折れることなく。
- ペースを崩さず、研究に励むこと。
- 研究活動を大切にしたい。しかし就職を考えると、気持ちがぶれる。

具体的な研究テーマへの言及

- エンジンの高効率化について、データをとっている。地道であるがきちんとやり遂げたい。
- 家電の制御について、しっかり学び、研究する力を高め、一定の成果を出したい。
- 嗅覚の分野はあまり研究が進んでいない分野なので、進めていきたい。

学修、研究のスタンス

- 学部的时候はルールに沿っての学習だった。大学院では、スケジュールを自分でたて、空き時間をどのようにつくるかなど自分で考えながら学習するようになった。まとまった時間で勉強するなら今、という意識で学習している。
- 先生から求められる大学院生としての論理的思考力、知識を身につけたい。研究室には学部生がいるので、自分たちが手本となるようにしたい（思考力、先生とのやりとり）
- 研究室の中に多くの人がいる。人との関わり、コミュニケーションを大切に、また後輩に見られていることを念頭に置き、修士生としての意識をしっかり持って励みたい。
- 学会発表をできるだけ多くできるように努力している。
- 学部のうちに一定の方向性を決めたので、大学院で深めたい。夏休みに HONDA の長期インターンシップに参加した。特別専攻で学んだことや今学んでいることを基盤に、自信をもって参加することができた。
- 文系の人を含めた他の分野の人たちとの交流をし、語る力やコミュニケーション力、人を動かす力等を身につけたい。そのためには自分か動かないとどうにもならないので、努めて交流していく。
- 新たなことにチャレンジしたい。
- 英語力の向上をめざす。TOEIC のスコアは大事だが、TOEIC そのものはテストに過ぎない。英語でコミュニケーションをとることを目標としている。

前期課程修了後の進路の希望

- 電気関係の仕事（メーカー）の仕事をしたい。
- 大学もしくは企業の技術職員をめざす。海外交流のあるところが魅力ある。
- 将来は研究職を目指している。
- 技術営業のできる企業就職をめざしている。
- 化粧品、薬品、食品関連の研究、開発に従事したい。
- 薬品系、医療にかかわる業種、業務に従事したい。
- 公務員を希望している（厚木市のインターンシップの影響）。
- 将来は自動車に関わる研究開発に携わりたい。就職して活躍できる自信を大学院で身につける。
- 自動車メーカーで研究開発に従事したい。そのためにも TOEIC スコアをさらに上げたい（730 点）
- エンジン開発関連の研究職につきたい。
- 海外に目を向けた企業に就職したい。後期課程に進むことも考えている。

5 特別専攻、特別専攻生に対することとして大学に望むこと

高いレベルの継続

- 学生にとって厳しくとも、高いレベルを維持するカリキュラムを継続してほしい。
- 学生の意識を高め、10 年後を見据えた特別専攻になることを望む。
- 求められるものが高く、期待も大きい。負荷がかかることもあるが、頑張ることで乗り越えることが大切だということを学生にわからせてほしい。

高校へのアピール

- 実車実験のできる大学は本学以外にほとんどない。学習、研究する上で非常に良い環境にあり、他大学生から羨ましがられている。勉強に興味を持っている人の多い高校へのアプローチをおこない、本学についてアピールし、やる気のある学生がもっと来ることのできる状況をつくってほしい。

海外研修

- 海外研修は今後も継続。留学前はお金を出してくれるのなら行ってもよいかという気持ちだったが、行って本当に良かった。1か月という期間は、毎日のスケジュールに追われ、それゆえ充実していたと思えるが、もう少し長い期間(2~3か月)あるとよい。
- 海外研修は費用が大きいと思うが、必修で継続。
- 海外研修は選択でよいのではないかと。自分には有益であったが、その時間を大学での学習研究など他の使い方がよいこともあるのではないかと考えている。

TOEIC

- TOEIC でスコアをとることがなぜ大切なのかを学生に伝える。学生には、留学に行って、海外の人と会話できる楽しさを知ってほしい。TOEIC のスコアを上げることが目的なのではないことを伝えたい。
- TOEIC 等、大学の支援に満足。今後とも学生支援を継続的に。無償を継続。無料回数を増やす。
- 600 点をクリアした学生には、大学負担で公開試験を受検させる(できる)ような支援。
- 英語力、会話力を高めるため、イングリッシュ・ラウンジに確実に行くことができるようにしてほしい。
- 英語については、留学やその後のことを踏まえて、英会話の授業もほしい。

科目履修に係る要望

- 医生命の科目をもっと増やしてほしい。医生命が学びたくて入学したが、実際には応用化学のカリキュラムがほとんどだった。座学の必修ではなく医生命の専門科目を配当してほしい。
- 専門基礎導入科目生命科学 I などがとれるとよい。学科の基礎科目をとりやすい教育課程がよい。
- 科目履修でもっと選択肢がほしい。

1 年次の一般生との同一授業増加の要望

- 1 年次の友だちづくりの上で一般学生と一緒に授業を受けることが必要。特別専攻だけの必修を減らす。
- 1 年次は学科一般生と一緒に授業を多くしてほしい。数少ない一緒に授業では、グループワークにおいて「あの人、誰？」という目で見られた。(1 期生ということがよく知られていないこともあったとは思いますが。)

その他

- 大学が負担する様々なことについて、学生が自ら楽しさを見出せるような指導が必要だと思う。学生にとって負担の大きなこともあるが、まずやってみようということを学生に伝えてほしい。
- 新聞理解表現演習は1年だけでよいと思うが、紙媒体の新聞は4年まで配布。
- 文系、教養の授業をさらに充実させてほしい。
- 最低限の知識量でよから歴史の見方がわかる授業など、人文系、社会系教養の授業の充実。
- 大学院にも特別専攻を設定してほしい。